

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	株式会社いずみ	代表者	長島孝夫	法人・事業所の 特徴	認知症だから、高齢者だから仕方ない…ではなく、「人」が「生活」を営む姿からかけ離れないようにという理念を根底におき、自宅での生活を少しでも長く続けるために、一人一人の生活スタイル・希望に沿って、生活するうえで必要なことに重きをおき支援することを心がけている。基本的には「利用者と共に」なんでも行なう反面、集团的・管理的なプログラムを設けていないため、一人一人が好きなように過ごすことができる。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 なるとう	管理者	諏訪裕美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	人	1 人	人	(5) 人	1 人	人	2 人	人	5 人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認			できていないことが明確になっている。そこを重点的に取り組むとよいと思う。	ミーティングで利用者の情報を得る方法を話し合う等、今後も全体での話し合いや互いに提案・アドバイスをする機会を設けていく。
B. 事業所のしつらえ・環境			狭いので仕方ないかもしれないが、車椅子の移動がしづらいため、移動しやすい環境整備をしたほうがよいと思う。	車椅子や歩行器を使用している方の移動のしやすさを考え、随時フロア会議でテーブル・席の配置について議題に挙げ話し合う。
C. 事業所と地域のかかわり			市に相談に来られた方には事業所内容は簡単に説明している。見学の受け入れもしている。福祉祭りや地域に出てパンフレットを配布したり、秋祭り開催時に配布できるパンフレットを作成してみてはどうか。認知症カフェの開催も知ってもらうきっかけになる。	秋祭り以外でも駐車場で利用者様と昼食会を行なうなど、地域の方にも目につくイベントを企画してみる。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み			秋祭りに来てくれた地域の方に話しかけてみてはどうか。近所に住む方を気にかけておくことで、利用者以外の心配な方への関わりがうまれるかもしれない。	近所を散歩する際、近隣をパトロールする、気にかける。地域住民に対しての介護相談会を企画してみる。
E. 運営推進会議を活かした取組み			ご家族の参加がない。警察に参加要請してみても、交通安全や虐待、行方不明についての話しができる。	警察に参加要請する。関係性を作る。
F. 事業所の防災・災害対策			地域へ訓練の日程を回覧板で知らせて、状況を見てもらってはどうか。地域の防災訓練は回覧板でまわってくる地域もある。地域住民(民生委員)が知っていることがあったので、聞いてみてはどうか。利用中に地震があった場合の避難場所・連絡先・引き渡し方法のアンケートをご家族にとっている事業所があった。	避難訓練のお知らせをご家族やボランティアの方にも送付する。震災時、ご家族も避難してしまった場合は避難所まで送るのか迎えに来てもらうのか等、事前にアンケートをとっておく。